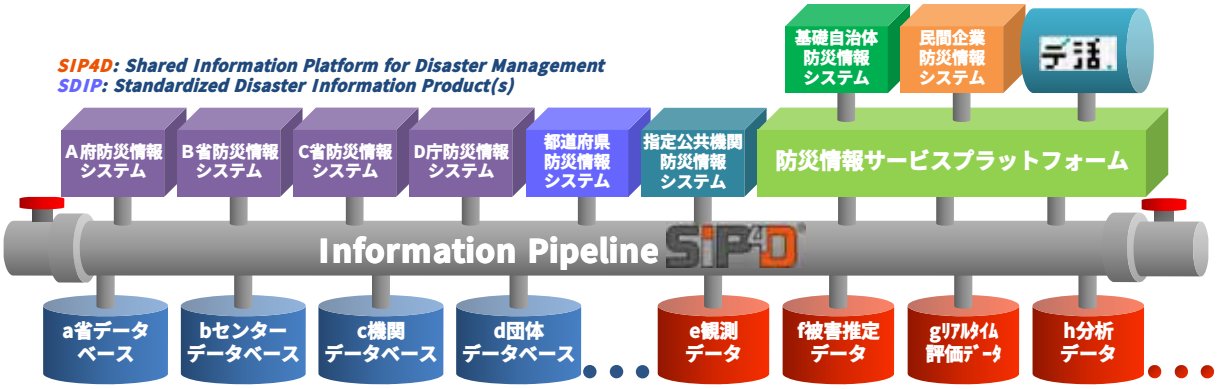
資料２－２

『SIP4D利活用システム技術仕様書・同解説』の紹介

（研）防災科学技術研究所　防災情報研究部門
主幹研究員　伊勢　正

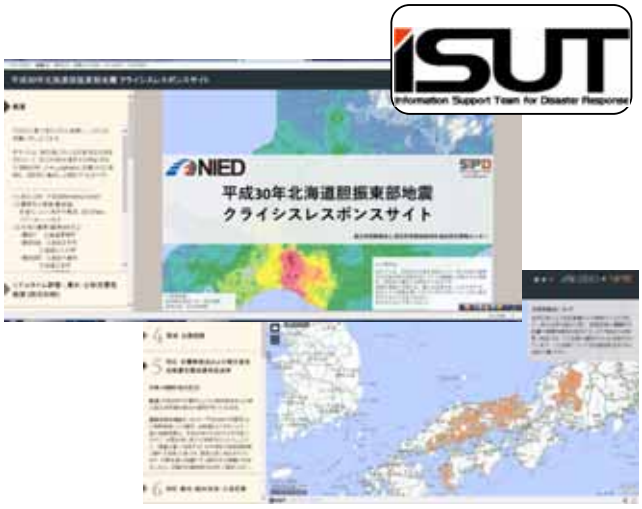
SIP4Dを核とした災害情報の流通

- SIP4D：基盤的防災情報流通ネットワークは、情報を流通させるパイプライン



ISUTによる情報支援

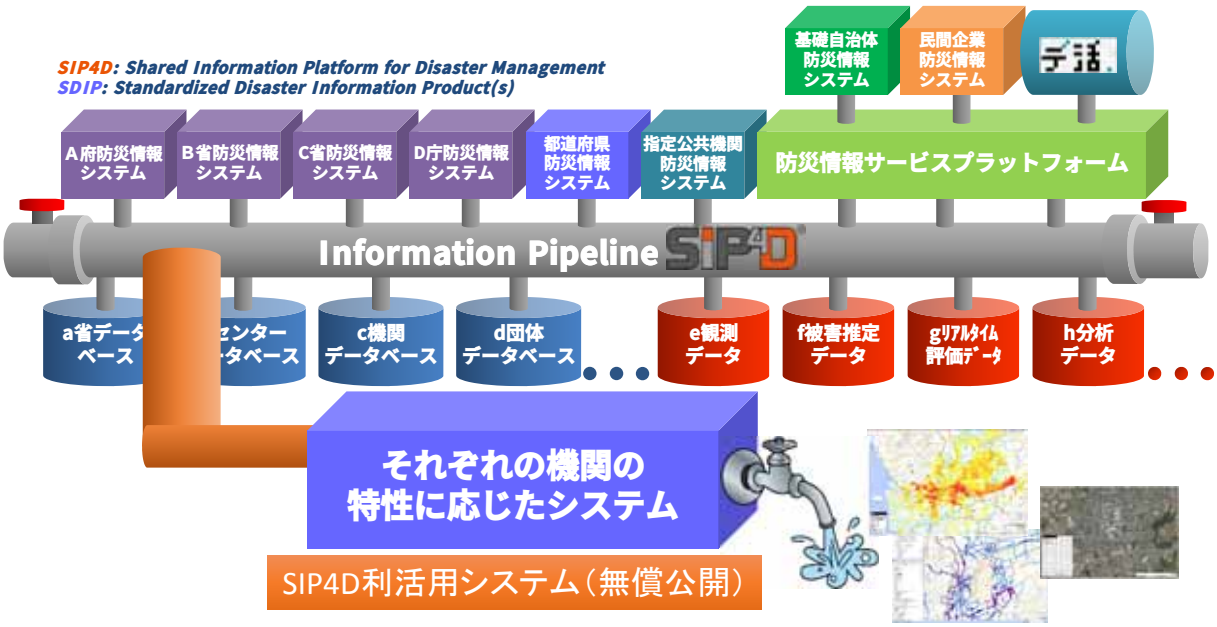
- 平成27年9月関東・東北豪雨（常総水害）以来、NIEDが被災自治体に入り、情報集約、整理の支援を実施。
- 平成26年熊本地震にて防災担当大臣の目に留まり、平成31年度からISUTとして運用開始。



展望：現場と研究をつなぐ「パイプライン」＝SIP4D

SIP4D利活用システム（1）

- SIP4Dで集約される情報を各機関（自治体など）で、適切に取り出し、利活用するためのシステム



SIP4D利活用システム（2）

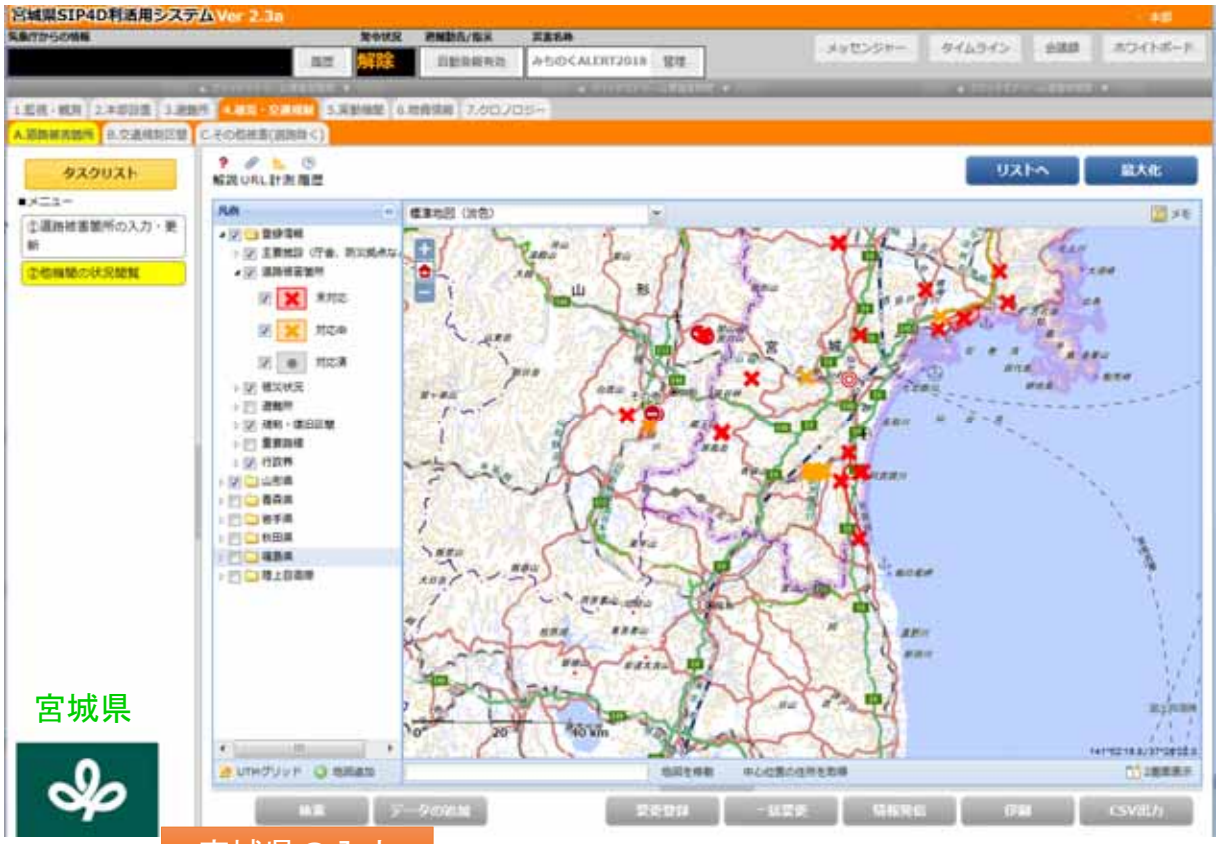
- Web-GISをベースに、各機関、各部署の求める共通状況図（COP）をプリセットするシステム

みちのくALERT2018での活用事例

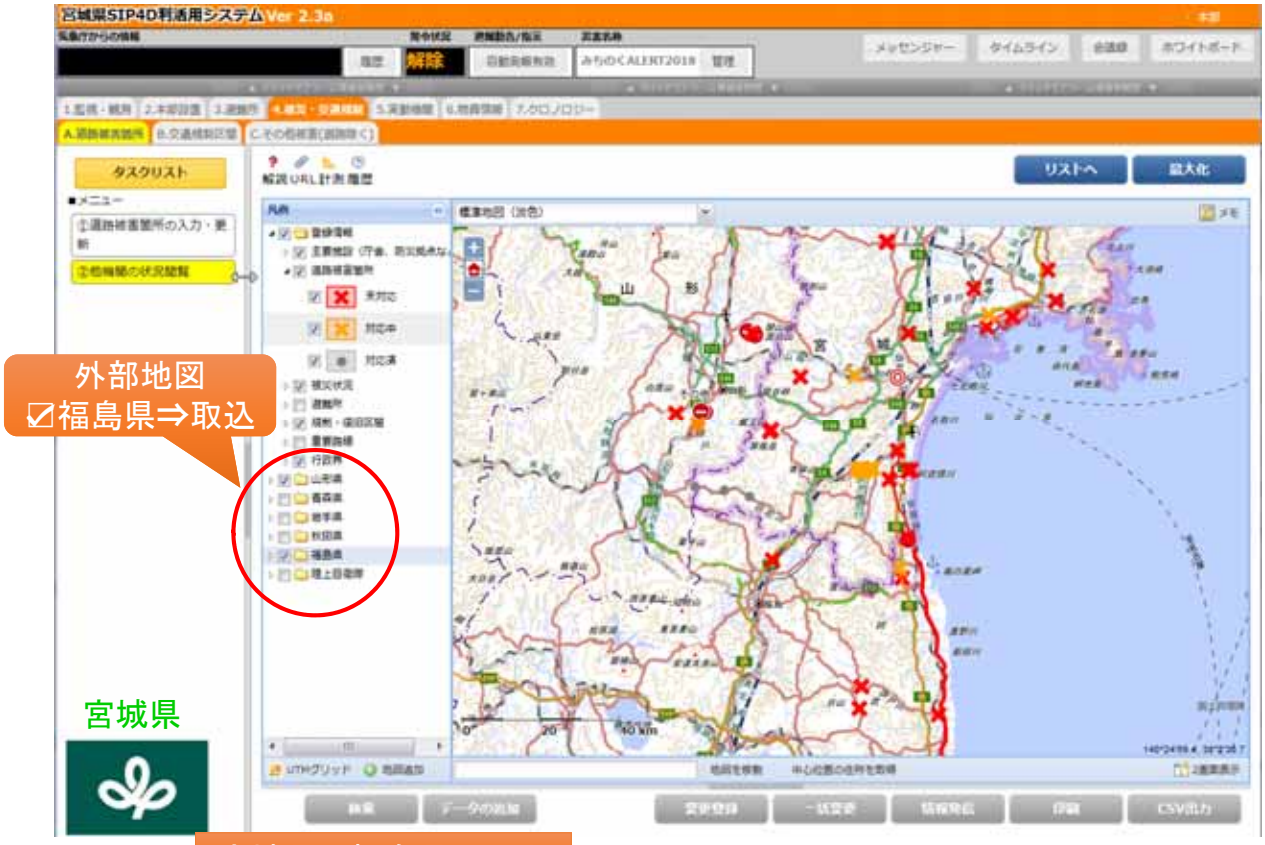
- 平成30年11月9日に実施されたみちのくALERT2018において、相互運用環境をSIP4D利活用システムを用いて試験的に構築し、陸上自衛隊東北方面総監部、東北6県に対し、災害情報の共有を図った。
- その結果、システムによる情報共有の有効性、使用システム・使用地図・地図記号等の統一が不可欠であること、が認知された。
- 今後は、災害情報システムに関する情報交換会を開催し、情報共有のルール（ピクトグラム、表示方法、共有すべき項目等）の統一に向けた活動を推進していく予定である。

《訓練の概要》
陸上自衛隊東北方面総監部（仙台市）が幹事となり、東北６県および市町村が参加する大規模総合防災訓練。４年に１度開催される。前回は2014年の開催。

仙台駐屯地の様子：
　体育館の前方に設置された大型モニターにSP4D利活用システムの画面が表示された。

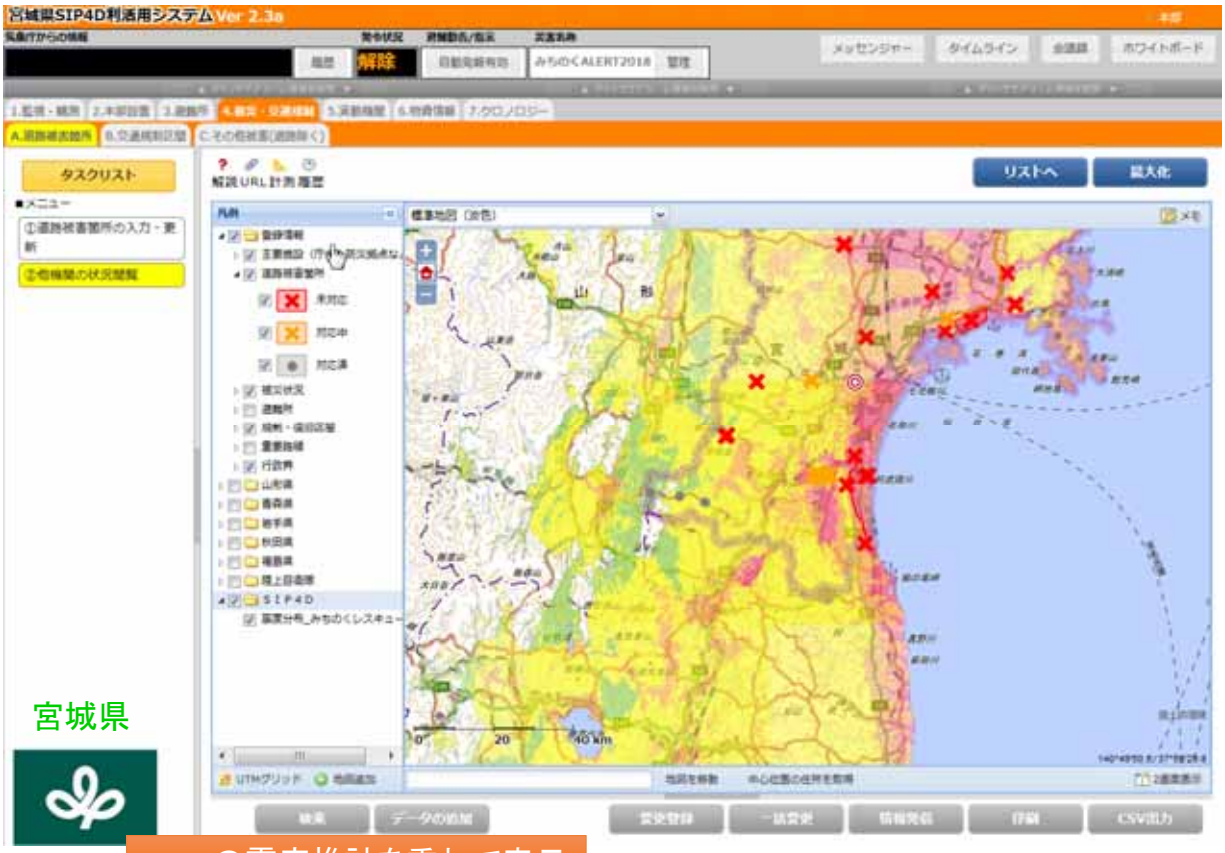


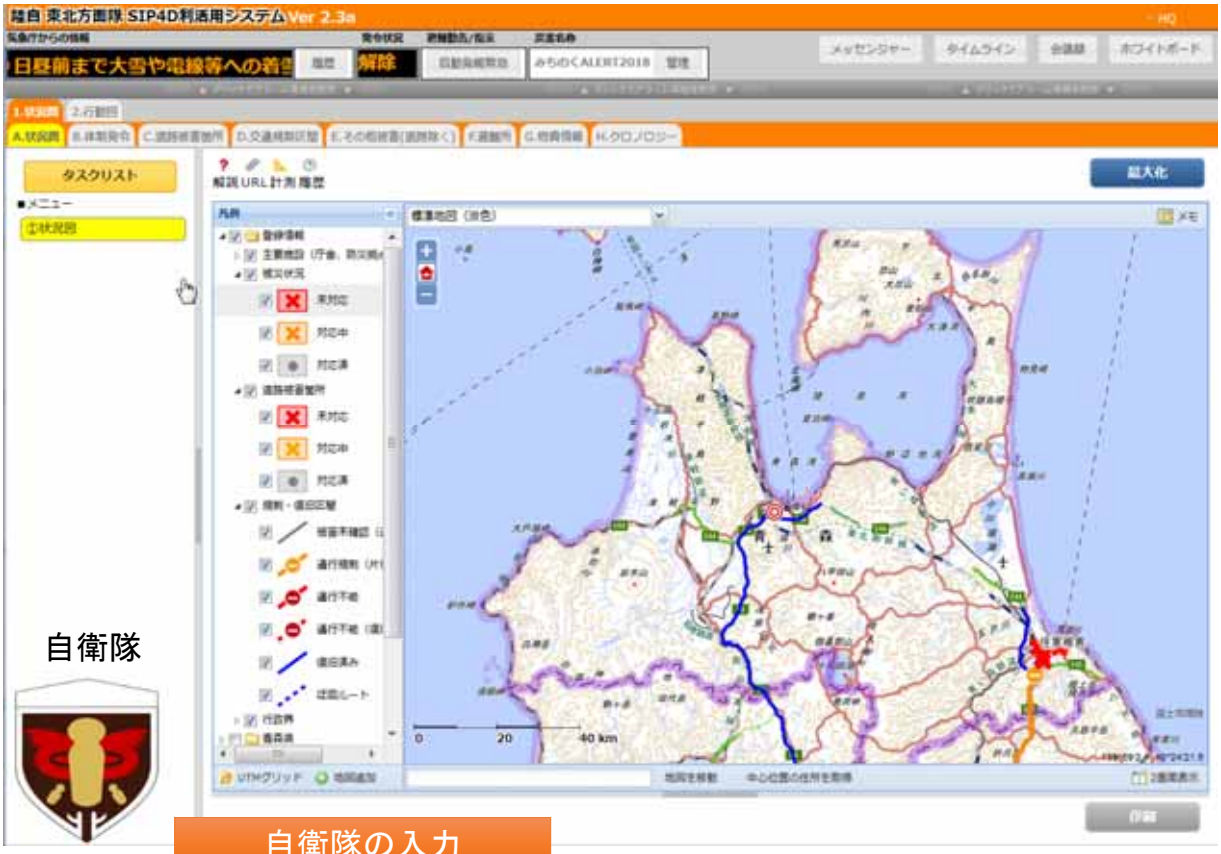
宮城県の入力



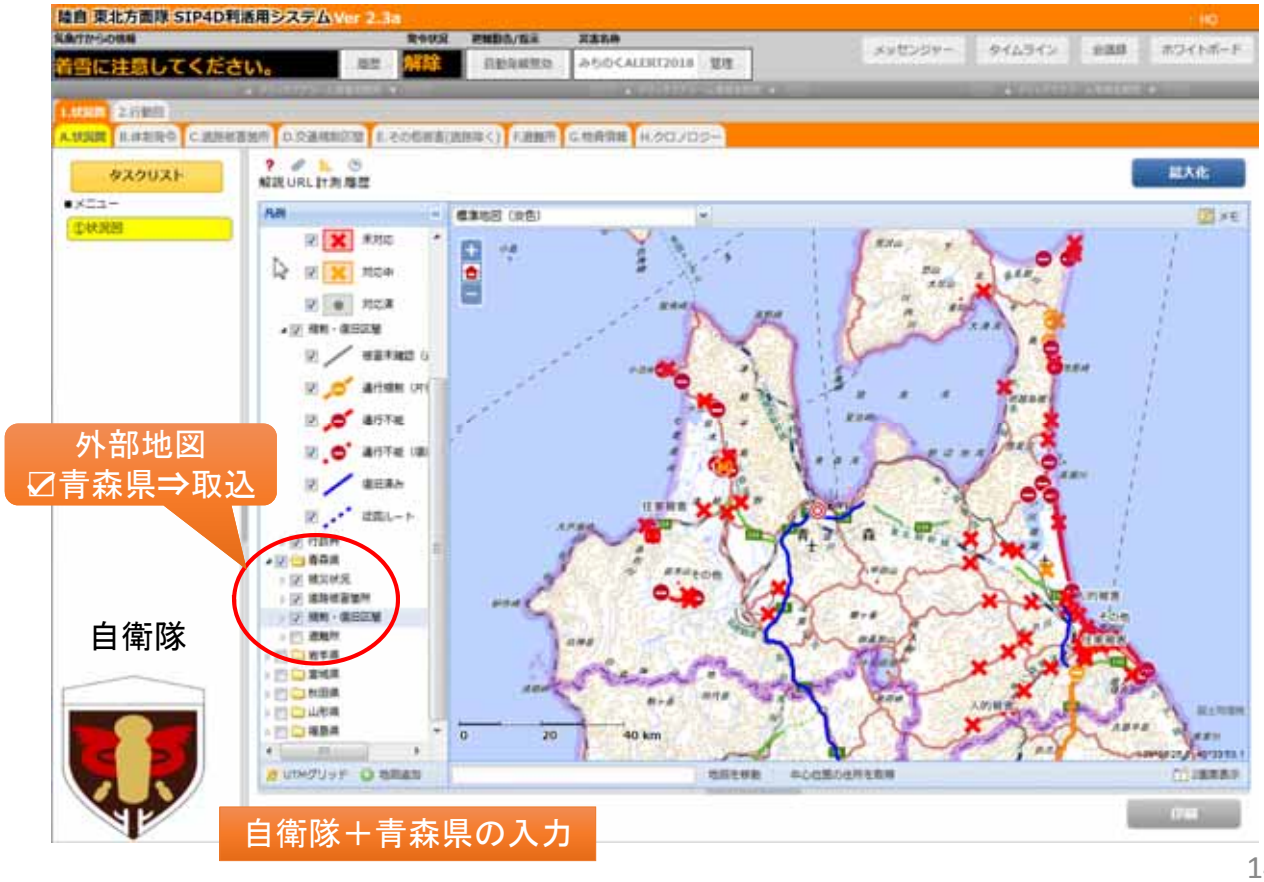
宮城県＋福島県の入力

宮城県SIP4D利活用システムVer 2.3a
解除
リストへ
拡大化
no image
宮城県
「地図追加」で検索
その他の地図を検索

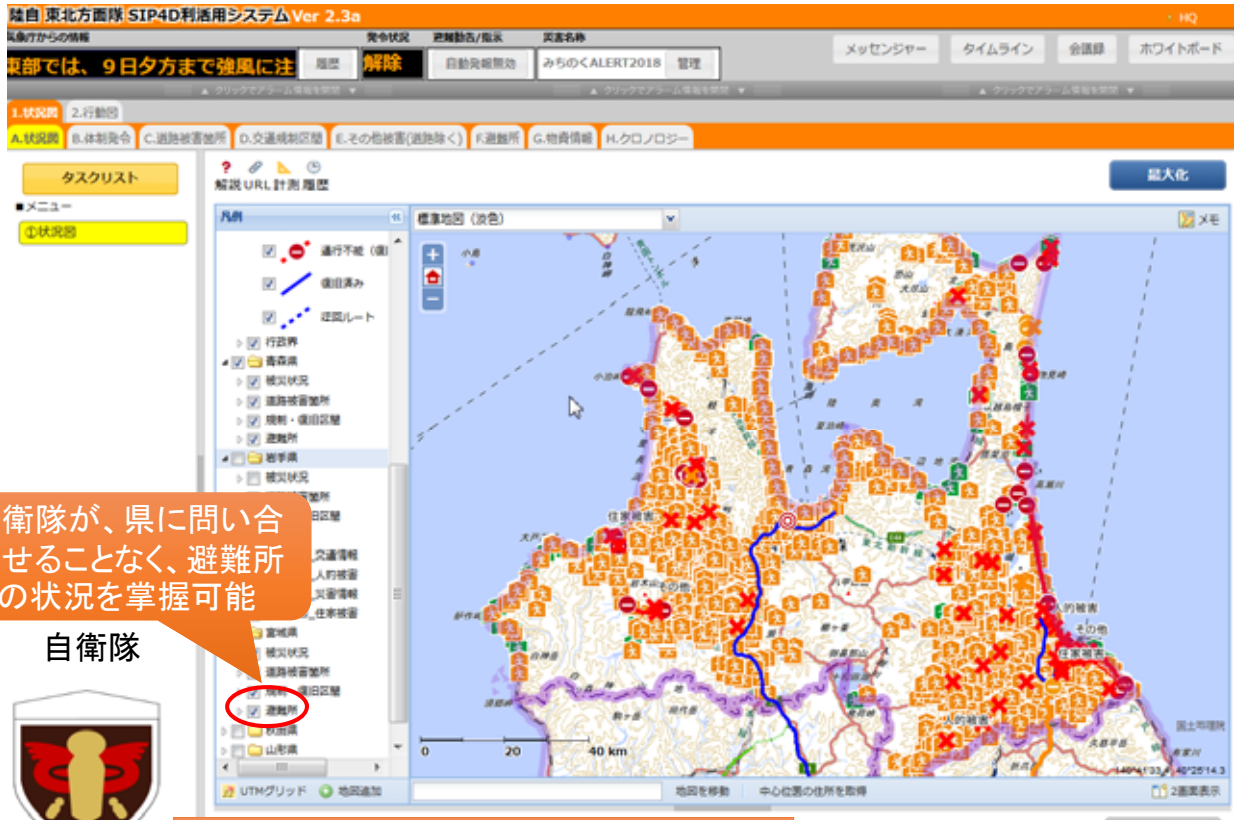

宮城県SIP4D利活用システムVer 2.3a
解除
リストへ
拡大化
タスクリスト
宮城県
NIEDの震度推計を重ねて表示



自衛隊の入力



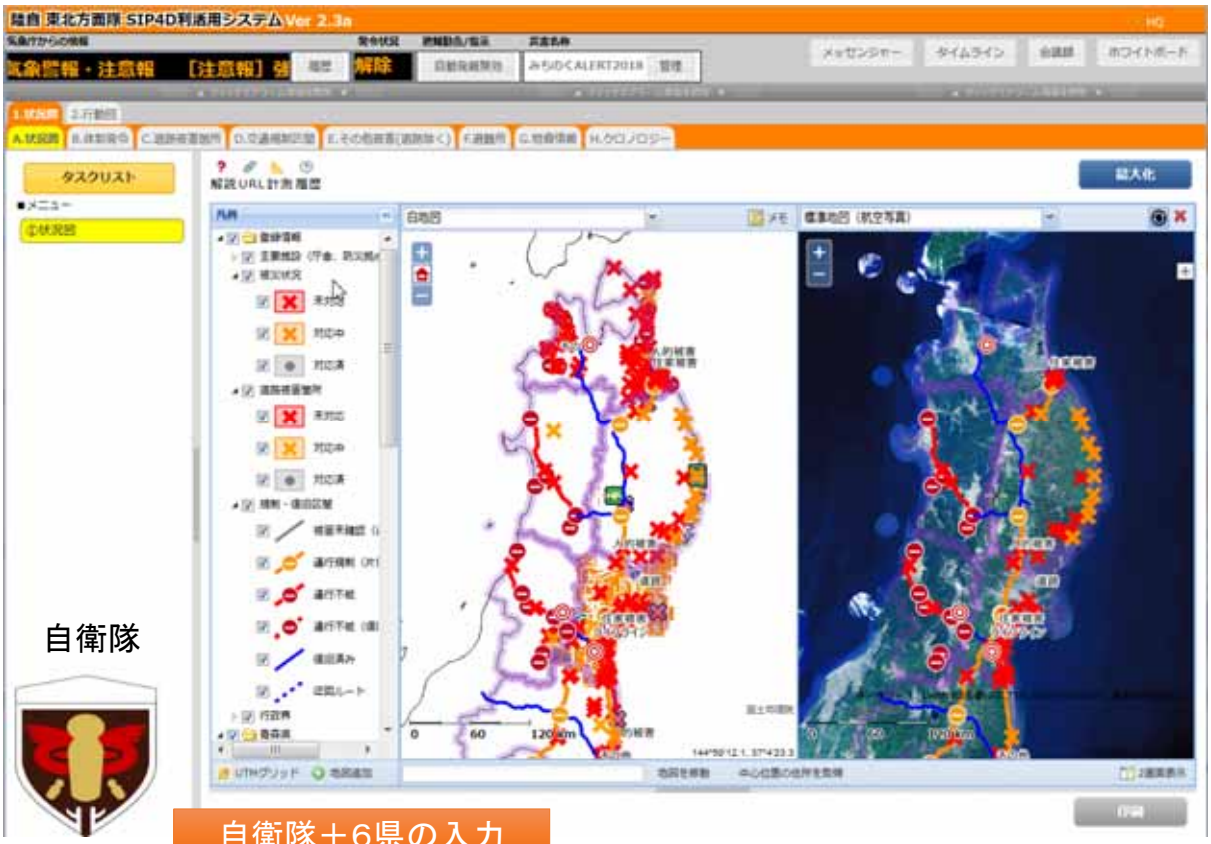
自衛隊＋青森県の入力



自衛隊が、県に問い合わせることなく、避難所の状況を掌握可能

自衛隊

自衛隊＋青森県（避難所を含む）の入力



自衛隊

自衛隊＋6県の入力

SIP4D利活用システム技術仕様書・同解説

- システムは無償公開中
- 技術仕様の解説書を2019年10月に刊行予定
  - 同システムの解説書
  - 防災科研の「研究資料」として刊行予定
  - 防災科研のHPから無償ダウンロード可能（PDF）
  - 自治体等の防災関係機関が情報システムを構築するための指針
  - SIP4Dを核とした災害情報の適切な流通を目指すための標準仕様
  - 継続的に改定

御清聴ありがとうございました。

【問い合わせ】

国立研究開発法人　防災科学技術研究所
防災情報研究部門
国家レジリエンス研究推進センター
主幹研究員　伊勢　正

TEL:　029－863－7780
携帯:　080－5932－9139
e-mail:　t-ise@bosai.go.jp

防災科研 NIED